

一般質問

9月定例会



門 眞一郎 議員

Q 家庭教育・幼児教育に力を

青森県など、家庭教育に熱心な県は総じて学力が高いという調査結果がある。本町でも、子育て世代が家庭教育に興味を持ち、取り組むように推進を図るべきではないか。

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものと位置付けられている。

保育園で幼児期教育を補い、しっかりとした基礎を築くことで、その後の学力向上が期待できる。さらに保小中高一貫教育の流れを築けるのではないかと。

A 再認識し取り組み

町長 山崎英樹

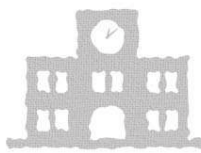
“生命地域” 飯南町の未来を拓く人づくりを目標に掲げ、保小中高一貫教育を通じて、確かな学力を育成し、まちへの愛着と誇りを育み、主体的・創造的に貢献しようとする人づくりを推進する。

人間形成の基礎となる幼児期教育の充実、および家庭教育支援は、重要な課題だ。

保育所から高校まで地元で育てる、という理念のもと、幼児期教育の重要性を再認識し、子どもたちの力を伸ばす教育指導に取り組む。



頓原小学校



A 地域資源を生かし人材育成する

教育長 安部 巨

小学校の学力テストでは、基礎学力が顕著に向上しているが、応用力はまだ課題がある。

児童生徒数が減少し、競争意識やコミュニケーション能力の欠如などが指摘されている。自ら未来を切り拓く能力を身につけるためには、生きる力を育むことが必要だ。

知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を図るため、豊かな地域資源（人・もの・こと）を活かした教育活動により、未来を担う人材育成に取り組む。

※学力試験は基礎編A問題と応用編B問題で実施されている。

Q 公衆無線LANを

県内でも公衆無線LANが普及し、これを活用した観光情報配信が盛んに行われるようになった。銀山街道を訪ねる会がガイドマニユアルを作っているが、これを使えば、情報発信はいつでもできる。

公衆無線LAN普及を進め、条件整備を図ってはどうか。



道の駅でWi-Fiを使う

A 普及は重要

町長 山崎英樹

観光交流施設12箇所に整備している。

時代に即応し、様々な媒体を活用した情報発信は重要であり、誘客を推進するためにも公衆無線LANの普及は重要であると認識している。

一般質問

9月定例会



早樋 徹雄 議員

Q 来島基幹集落センター改築は

過疎地域自立促進計画で平成30年度の建設が計画され、地域の大きな期待を感じる。

小さな拠点づくりとともに飯南高校存続のため、学習支援館に図書館の併設など、さらなる教育環境の整備、また町の教育・文化ゾーンとして教育文化ホールの施設の併設など、今後の飯南町を見据えた検討が必要である。

町長として、残された課題の一つが来島基幹集落センターの改築であり、また、飯南高校の存続を確たるものにするということであると思うが考えを問う。

A 教育・文化ゾーンとして検討

町長 山崎英樹

来島基幹集落センターの改築は、町の発展、小さな拠点整備という観点から非常に急ぐ大切な課題である。

基幹集落センターは公民館及び学習支援館が併設されている。来島地域の住民の拠点としてだけでなく、学校教育・社会教育の重要な拠点施設になっている。

今後策定する「公共施設総合管理計画」と関連させ、教育ゾーンとしてふさわしい機能となるよう検討する。



来島基幹集落センター。

Q 「ぶらっと」の運営費支援を

島根県では、平成27年度から「ひきこもり支援センター」が設置された。

こうした中、飯南町社会福祉協議会では、平成27年5月から「ひきこもり・不登校への相談業務」として「ぶらっと」を立ち上げ、相談支援が開始されている。自主財源だけで運営されており、経費の点から活動も限られる。

これは小さな町での先進的な取り組みである。「ぶらっと」の活動が継続し、さらに充実していくよう運営費を助成し、町全体の相談支援体制の底上げ強化が望まれるが、どう考



社会福祉協議会

A 「ぶらっと」の活動にしっかり対応

町長 山崎英樹

児童、生徒のひきこもり等の相談・支援は、保健福祉課に「子供・若者相談窓口」を設置し、教育委員会と連携をとり、「めだかの学校」をたち上げ、定期的に相談、支援を行っている。現在、「寝たきりゼロ・虫歯ゼロ・ひきこもりゼロ」を掲げ各種施策を進めている。

「ぶらっと」の活動は大変ありがたく、力強く思う。運営費の支援は社会福祉協議会とも協議し、今後の活動に対応したい。